

ANORニュースレターBY JORA No.4(2004.6.28)要旨

1. 行事と活動

前回のメールで案内の通り、秋田県立大学とJORAの共催で、有機性廃棄物循環利用に関する国際シンポジウムが2004年10月5-7日、秋田市で開催される。

本シンポジウムの実行委員長は、秋田県立大学教授、JORA副会長の茅野博士で、欧州で有機性廃棄物循環利用に関して最も影響力のある協会の一つであるオービット(有機物の循環と生物的処理)のビドリリングマイアー博士、ANORの運営委員会のメンバーを含む、多くの第一線の専門家が、添付別紙の通り、有機性廃棄物循環利用の広範囲な分野で講演されることを、喜んで報告する。

(www.jora.jp/ISOR2004 参照)

2. 情報

(1) 地球政策研究所

同研究所の創設者で現会長である、レスター・アール・ブラウン氏の地球環境問題に関する講演を2004年6月1日聞く機会があり、講演内容に多大の興味を持ったので、同研究所が、環境問題に関する最新の調査として発行している小文：エコ・エコノミー・アップデートのメールを依頼した。

添付の2つのリリースを参照願う。

一つ目は、2004年5月5日付けの、レスター・アール・ブラウンによる、“2005年に世界の食料供給保障を危うくする、危機が起きる可能性有り。”

二つ目は、2004年6月16日付けの、ジャネットラーセンによる、“世界の海岸線で死んだ土地が増加している。”である。

地球研究所のホームページのレスター・アール・ブラウンの経歴を一部抜粋する。

“1974年にロックフェラー兄弟財団の援助で、地球環境問題を分析する最初の研究機関である、ワールド・ウォッチ・インスティテュートを設立。ワールド・ウォッチ・ペイパー、ワールド・レポート年報、ワールド・ウォッチ・マガジン等を発行した。

2001年5月に、環境面で持続可能な経済を達成する為のヴィジョンと道筋を示す、地球研究所を設立した。

同氏は世界で最も知られた作家の一人で、40数カ国語に翻訳されており、著名な著作には：国境の無い人間、国土、世界；再生可能社会の構築；誰が中国を養うのか；プランB ストレスとトラブル下の文明に囲まれた、地球を救う方策。等がある。

(2) ごみゼロ宣言

ご存知の通り、21世紀の環境面での再生可能社会を構築する為の、地方自治体によるごみゼロ宣言は、1996年にカナダのキャンベラで2010年を目標年次として始まった。徳島県の小さな町である、上勝町が、2003年9月に、2020年を目標年度として、日本で始めてごみゼロ宣言を行った。

環境省は、2004年6月15日公式に、上勝町プロジェクトを11件の経済と環境の
良いバランスに基づく、地域発展のモデル事業の一つとして発表した。
添付のグリーンピースジャパンの報告である、上勝町ごみゼロ宣言を参照願う。